



Link and Motivation Group

中学生高校生の傾向に関する 調査結果

株式会社リンクアンドモチベーション

背景

近年、中学生ならびに高校生を取り巻く環境は大きく変化しています。少子化が進む中で一人あたりの教育費は増加し、学習塾やオンライン教材など、学習手段の選択肢も広がっています。

一方で、中学生高校生が抱える葛藤や心理的負荷は小さくありません。中学1年生から高校3年生にかけての時期は、学年が上がるにつれて学習内容が高度化し、部活動や交友関係の変化、そして進路選択の本格化など、求められる役割や負担が大きく変化します。

受験に着目した効率的な勉強法やテクニックが注目される一方で、それだけでは、学年によって異なる心理的・認知的発達段階や、家庭・学校からの期待の違いまでを十分に捉えることはできません。

本調査では、中学1年生から高校3年生までの各学年に焦点を当て、学習意識・進路観などの違いを明らかにし、学年ごとに求められる支援の在り方を検討しました。

目的

中学1年生から高校3年生の指向性を比較することで各学年における課題を明らかにする。

対象

2016年1月～2025年10月にリンクアンドモチベーショングループ（以下当社）が提供する**BRIDGE**を受検した中学1年生～高校3年生のべ約2500名を対象としました。

分析方法

BRIDGEの結果を学年ごとに集計して整理しました。

当社は、経済産業省より平成17年度に受託した「社会人基礎力に関する調査」の中で、社会人に求められる基礎力に関する調査を行い、下図の「人材要件フレーム」として定義しました。学生版BRIDGEでは、人材要件フレームの「ポータブルスキル」「モチベーションタイプ」を診断しています。

▼ポータブルスキル

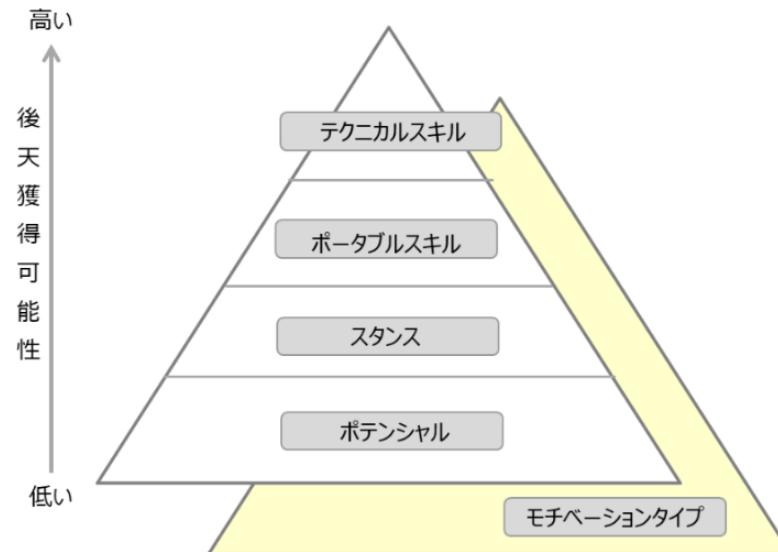
業界や職種の枠を超えて通用する基本的スキル(社会人基礎力)を
「対人力」「対課題力」「対自分力」の3分類24項目にて整理。

▼モチベーションタイプ

可視化しづらい、学ぶ上での指向性や欲求といった
モチベーションの特性を「行動タイプ」「学習タイプ」にて整理。

BRIDGE
(適性診断) の
概要

人材要件フレーム



ポータブル スキル

対課題力 <small>課題や仕事の処理対応能力</small>	左脳的		右脳的	
	計画力	情報を整理して物事を段取りよく進めることができる力	試行力	自分で色々と試行錯誤しながら物事を進めることができる力
	推進力	目的意識を持って、ゴールへと推し進めることができる力	変革力	常に新しいを取り入れたり、変えていくことができる力
対自分力 <small>行動や思考のセルフコントロール能力</small>	確動力	計画したことに対して、着実に実行することができる力	機動力	状況に応じて機転をきかせた判断行動ができる力
	分析力	本質を捉えようと深く掘り下げて考えることができる力	発想力	既成概念にとらわれることなく物事を考えることができる力
対自分力 <small>行動や思考のセルフコントロール能力</small>	内向的		外向的	
	忍耐力	苦しみや辛い状況を受け入れて耐えることができる力	決断力	一度決めたら最後まで貫く潔さで行動できる力
	規律力	秩序やルールに従って物事を進めることができる力	曖昧力	不確実で不安定な状態をそのまま受け入れることができる力
対人 <small>人に対するコミュニケーション能力</small>	持続力	長期間継続してひとつのことにつき組むことができる力	瞬発力	臨機応変に、かつ集中的にパワーを発揮することができる力
	慎重力	注意深く丁寧に物事を進めることができる力	冒険力	新しいことに対して危険を恐れず挑戦することができる力
対人 <small>人に対するコミュニケーション能力</small>	伴走型		牽引型	
	傾聴力	相手の意見や要望に真剣に耳を傾けることができる力	主張力	周囲に対しオープンに自分の考えを発信することができる力
	受容力	相手に共感し、受け入れることができる力	否定力	相手に対して、指摘や否定をすることができる力
対人 <small>人に対するコミュニケーション能力</small>	支援力	相手に気を配り、援助やサポートすることができる力	説得力	相手に対して、自分の考えを理解納得させることができる力
	協調力	周囲との調和を図りながら物事を進めることができる力	統率力	集団をまとめていくことができる力

モチベーション タイプ

行動タイプ

日常でどのような行動をするときにモチベーションが高まるのかを測定したもの

アタック
指向

達成支配型

- ・一番
- ・勝ちたい
- ・自分の意見を主張する
- ・挑戦的

レシーブ
指向

貢献奉仕型

- ・他人のため
- ・気を遣う
- ・協調
- ・好かれたい

シンキング
指向

論理探求型

- ・仕組み
- ・原因分析
- ・真偽
- ・掘り下げる

クリエイト
指向

審美創造型

- ・特徴的なアイディア
- ・注目を集める
- ・好き嫌い
- ・イメージや感覚

Wide
指向

網羅重視型

- ・幅広い知識
- ・学問の網羅
- ・全体像の理解

Deep
指向

深耕重視型

- ・専門性の強化
- ・特定の領域
- ・苦手な科目
- ・掘り下げる

Why
指向

意味追求型

- ・勉強の意味
- ・構造の理解
- ・社会との接続

How
指向

手段追求型

- ・効率的な勉強方法
- ・タイムコントロール
- ・成績向上第一
- ・無駄を避ける

調査
結果

いずれの学年でも右脳的な発想力が最も高く、左脳的な計画力が最も低い傾向

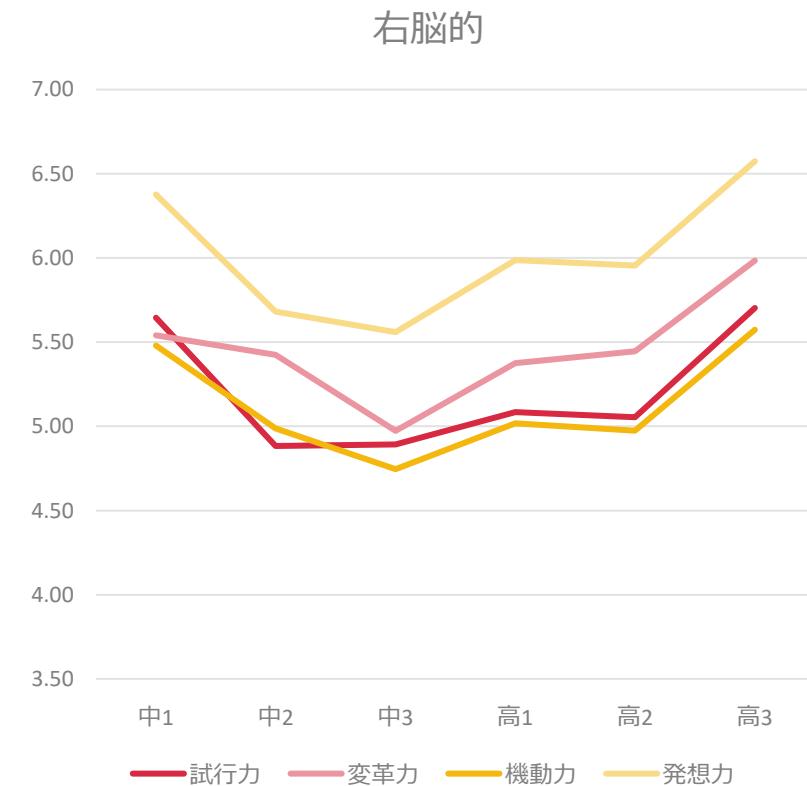
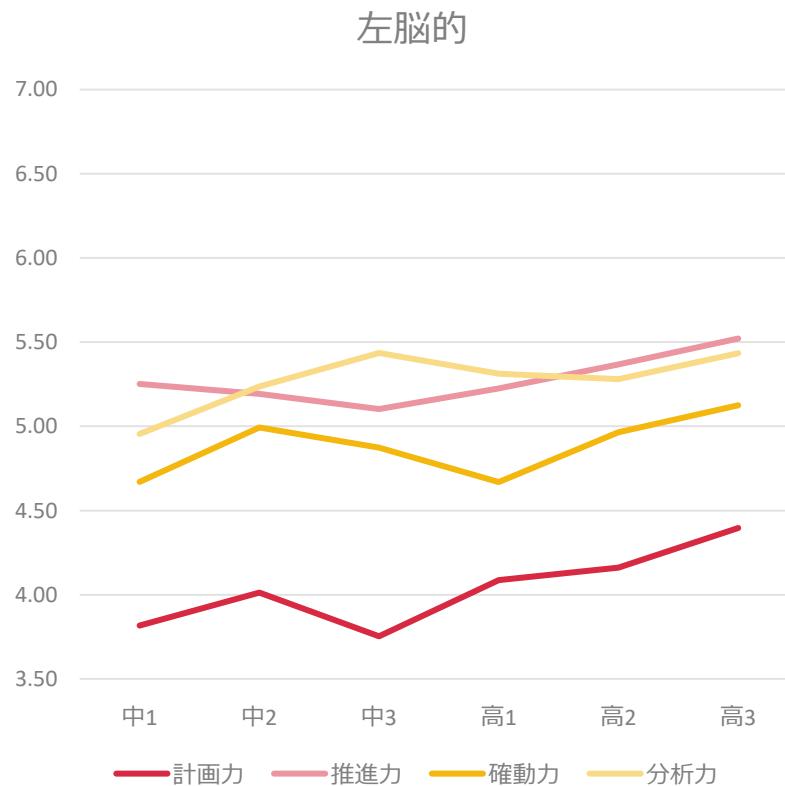
- 中学生高校生は、相対的に自由な発想を持つ一方で、計画を立てることは苦手とする傾向がある。

中3は中1と比較して、左脳的な推進力、右脳的な力が低い傾向

- 中1と比較して中3は、左脳的な推進力、右脳的な力（試行力、変革力、機動力、発想力）が低く、物事を前に進めたり、自由に発想して試行錯誤しながら動くことが苦手な傾向がある。

高3は高1と比較して、全般的に対課題力が高い傾向

- 高1と比較して高3は、左脳的な計画力、確動力、推進力や右脳的な力（試行力、変革力、機動力、発想力）が高い。

詳細
データ

いずれの学年でも外向的な力が高く、内向的な力が低い傾向

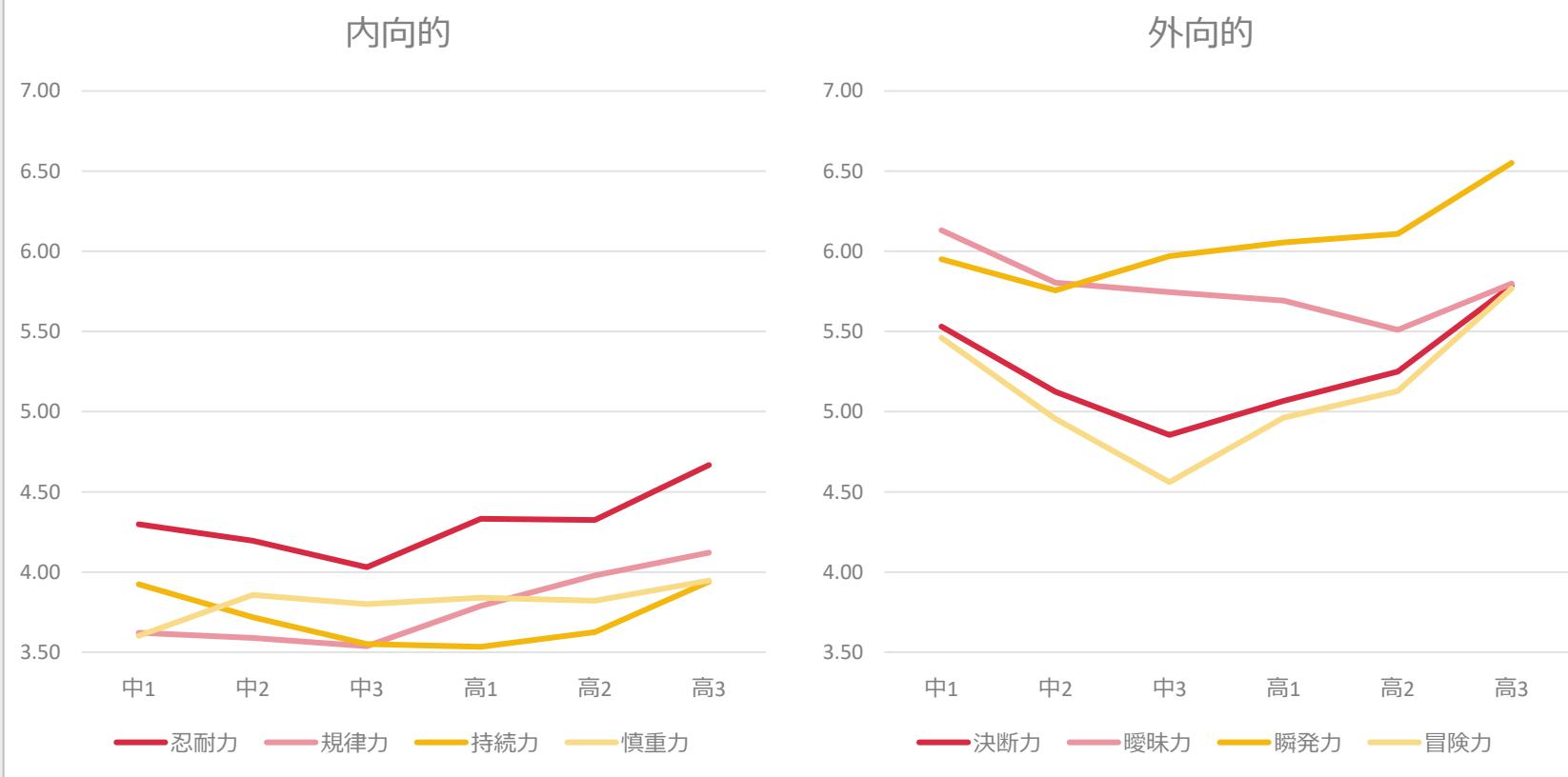
- 中学生高校生は、外部に対して動き出す力は高い一方で、自分を律してやり抜く力は低い傾向がある。

中3は中1と比較して、内向的な忍耐力、持続力、外向的な決断力、冒険力が低い傾向

- 中1と比較して中3は、内向的な忍耐力、持続力、外向的な決断力、冒険力が低く、
忍耐強く継続的に進めたり、新しいことへの挑戦や思い切った決断をすることが苦手な傾向がある。

高3は高1と比較して、内向的な忍耐力、規律力、持続力、外向的な決断力、瞬発力、冒険力が高い傾向

- 高1と比較して高3は、内向的な忍耐力、規律力、持続力、外向的な決断力、瞬発力、冒険力が高く、
自制心をもって継続的に学習に当たり、思い切った決断を行う力が高い傾向がある。

詳細
データ

いずれの学年でも牽引型の説得力が最も高い傾向

- 中学生高校生は、相手に対して自分の考えを理解納得させる力が高い傾向がある。

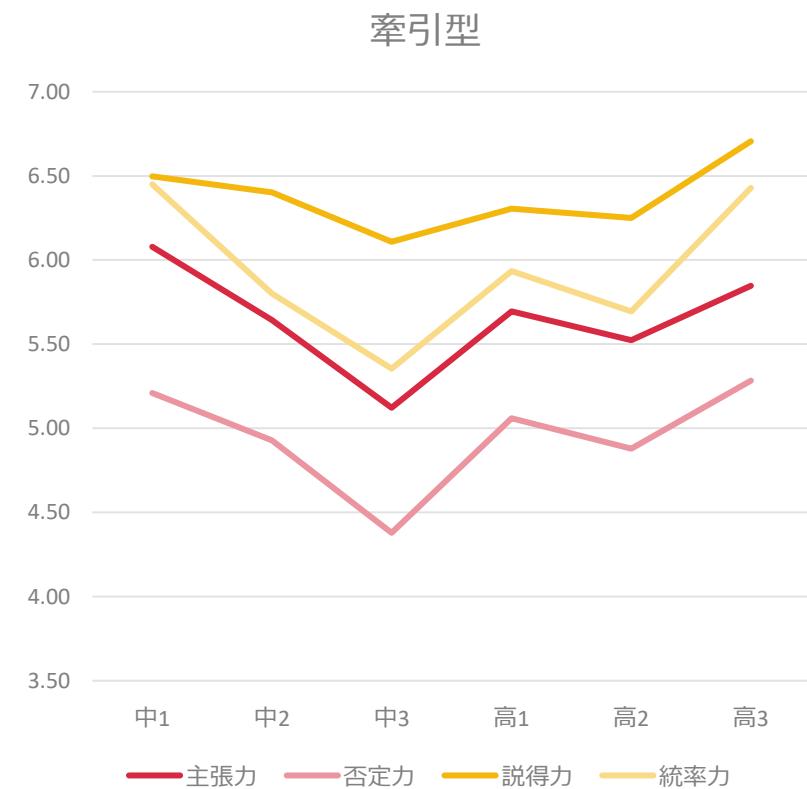
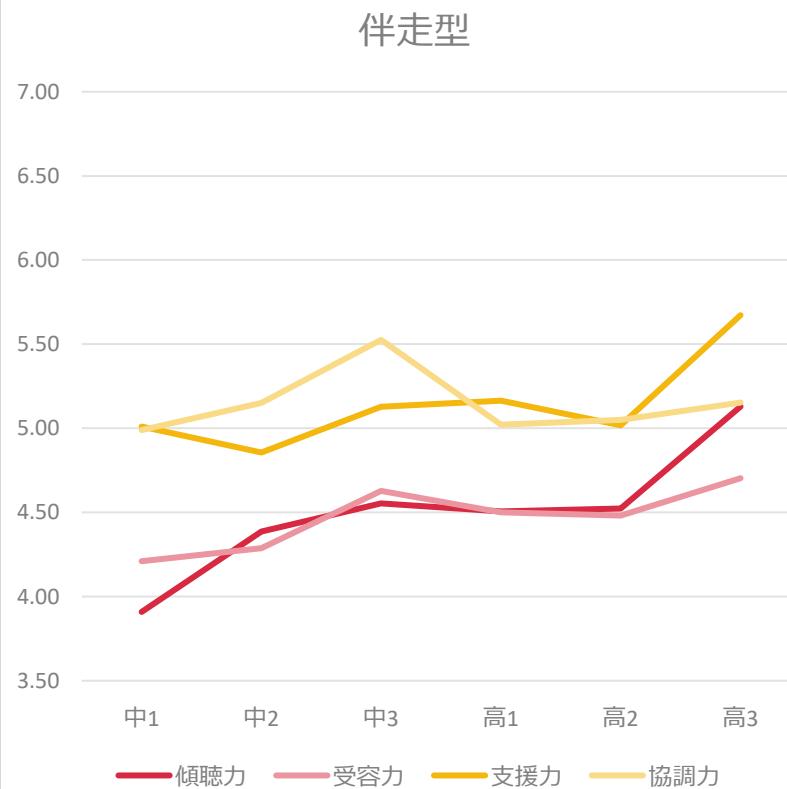
中3は中1と比較して、伴走型の傾聴力、受容力、協調力が高い一方、牽引型の力が低い傾向

- 中3は中1と比較して、伴走型の傾聴力、受容力、協調力が高い一方、牽引型の力（主張力、否定力、説得力、統率力）が低い。周囲と協力しようとする姿勢は強い一方で、周囲を引っ張る力は弱い傾向がある。

高3は高1と比較して、伴走型の傾聴力、支援力、牽引型の否定力、説得力、統率力が高い傾向

- 高3は高1と比較して、高3は傾聴力、支援力、主張力、否定力、説得力、統率力が高い。

高3は目的意識が明確となり、周囲の話をよく聞きつつ、自分の考えを理解納得させる力が高い傾向がある。

詳細
データ

いずれの学年でもアタック、クリエイト、WIDE、HOWが高く、シンキング、DEEP、WHYが低い傾向

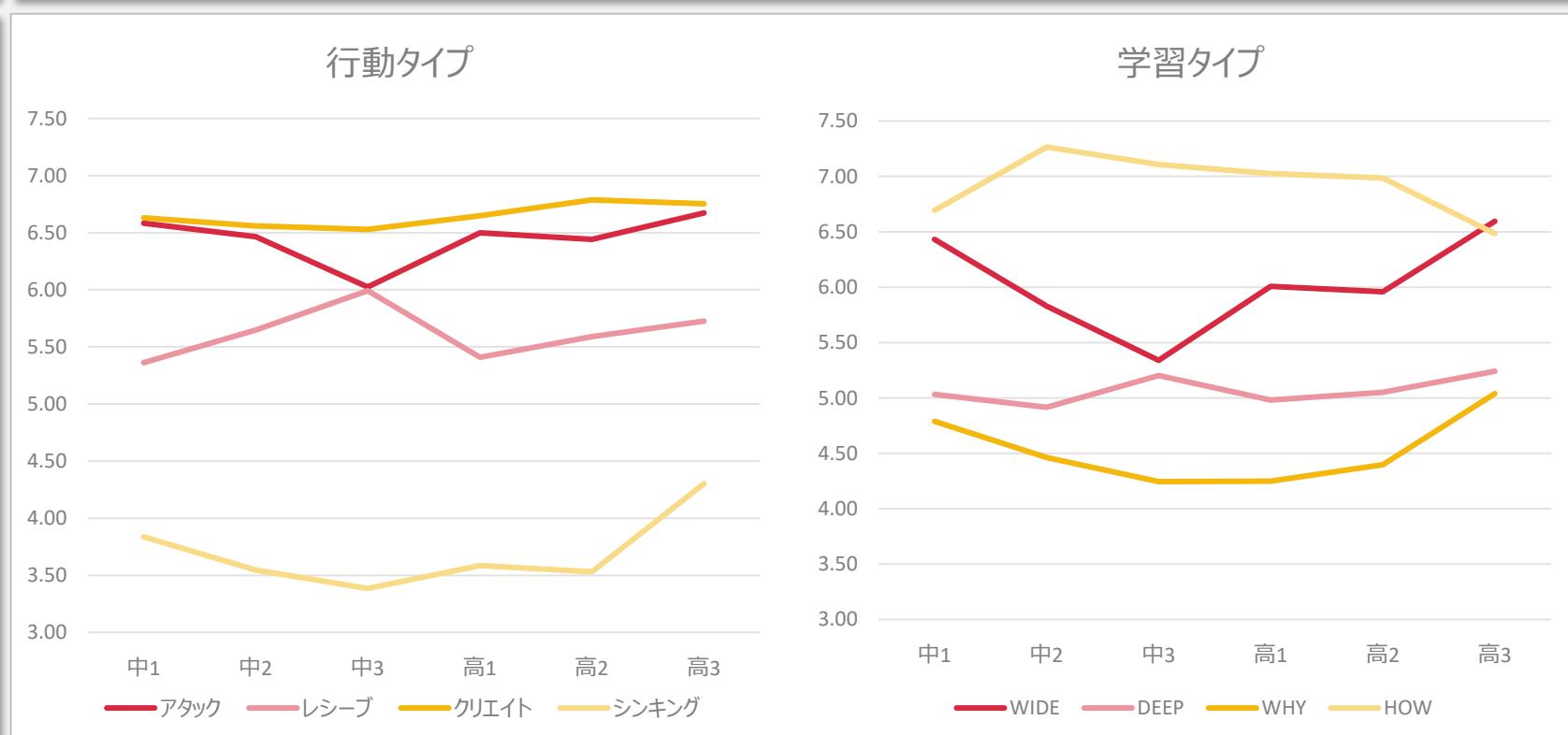
- 中学生高校生は、自由な発想で目標達成指向が高く、幅広く具体的な方法論に興味が強い一方、ロジカルに考え、深く意味を探求することに苦手意識を持つ傾向がある。

中3は中1と比較して、レシーブが高い一方、アタック、シンキング、WIDE、WHYが低い傾向

- 中3は中1と比較して、周囲への貢献意欲が高い一方、目標達成指向やロジカルに幅広く意味を探求する指向が低く、学習では「頻出範囲に絞る」「公式暗記で済ませる」など、思考を広げたり深めたりするアプローチが弱くなる傾向がある。

高3は高1と比較して、シンキング、WIDE、WHYが高い一方、HOWが低い傾向

- 高3は高1と比較して、ロジカルに幅広く意味を探求する指向が高い。目的意識が明確になりテクニックよりも本来的な意味や背景を理解しようとする姿勢が強く、自分なりの目標を軸に考えようとする傾向がある。

詳細
データ

結果

- ・中学生・高校生ともに右脳的な発想力が最も高く、左脳的な計画力が最も低い傾向であった。
また、外向的な力が高く内向的な力が低い傾向があり、動き出す力は高い一方で自分を律してやり抜く力は低い傾向がみられた。
- ・中学生では、中3は中1と比較し右脳的な対課題力（試行力・変革力・機動力・発想力）や内向的な対自分力（忍耐力・持続力）が低い傾向であった。一方で、伴走型の対人力（傾聴力・受容力・協調力）は高い傾向がみられた。
- ・高校生では、高3は高1と比較し対課題力、対自分力、対人力が高い傾向であった。
自制心をもって学習に継続的に取り組み、必要な場面で思い切った決断を行う力が高い傾向がみられた。
また、周囲の話をよく聞きつつ自分の考えを相手に理解・納得させる力も高い傾向があった。
なお、高3は高1と比較しシンキング・WIDE・WHYが高い傾向であった。ロジカルに幅広く意味を探求する指向が高く、テクニックよりも本的な意味や背景を理解しようとする姿勢が強い傾向がみられた。

考察

本調査から、**中高生は「発想力」「外部に向けて動き出す力」「自分の考えを理解・納得させる力」が相対的に高い一方、「計画力」「自分を律して継続する力」「深い意味の探求」が低いことが明らかになりました。**

中学生では、推進力が低く協調性が高いため、新しい挑戦や本質的な思考が抑制されやすい状況がみられます。

また、傾聴力や受容力、HOWが高い一方、アタックやシンキング、WHYやWIDEが低いことから

周囲と歩調を合わせながら「効率的にこなす学習」に偏りやすい点も特徴です。

一方で高校生、とくに高3では、計画力・確動力・規律力・持続力が高く、

計画を立てて自分を律し、確実かつ継続的に学習を進める姿勢がみられました。

さらに、高3は高1と比較して WIDE や WHY が高く HOW が低いことから、方法論に依存せず、ロジカルに幅広く意味を探求する姿勢へと移行していることが示唆されます。

こうした傾向から、中高生には**自由な発想や柔軟な行動力を伸ばすとともに、**

計画を立て辛抱強く学習を継続する自律性を育むことが重要であると考えられます。

今後の
課題

今回の結果から、中高生が持つ発想力や対人面での強みが、周囲と足並みをそろえようとする傾向の強さから十分に發揮されず、推進力や意味探求の低下につながっている点が課題として示唆されました。

中高生を取り巻く関係者からの適切な支援がない場合、挑戦回避や自信の低下を招く可能性があります。

このような結果から今後は、

- ・自由な発想や柔軟な行動を伸ばすために、**本人の主体的な言動をすぐに否定するのではなく、一度受け止めて承認する**
- ・本人が学習や挑戦の意味を理解し、自ら目的を言葉にできるよう、方法論を伝えるだけではなく本人が考える時間を持つ
- ・計画力や内省力を育てるために、**計画を立てて継続していることや振り返る行動を促す**

といった、**強みを基点にしながら課題の内省を促す関わりを、家庭や学校などの関係者が役割分担して行う**ことが重要になるのではないでしょうか。



Link and Motivation Group

株式会社リンクアンドモチベーション モチベーションエンジニアリング研究所

所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目12-15 歌舞伎座タワー 15階

WEBサイト <https://www.lmi.ne.jp/>

発行責任者 大島 崇

問合せ先 TEL : 03-6853-8111 FAX : 03-6859-9050 E-mail : me-lab@lmi.ne.jp